

憩の中庭

東京都世田谷区立玉川小学校

実施学年：5年
クラブ（4～6年 特別活動）
生徒数：130人（4学級）
30人（クラブ）

実施教科：図画工作科・総合・特別活動
・その他日常の学校生活
実施時間数：6時間（5年図画工作科）
8時間（5年総合）16時間（クラブ）



コマ撮りアニメーション（図画工作科）
「だるまさんが転んだ！」



ミニ田んぼで稲を育てる
（総合）



ソーラークッカーを使ってご飯を炊く。
（総合）



小屋をつくる（現代アートクラブ）
小屋や焼き物の作品をつくり、中庭に置いて全校児童に楽しんでもらう。



刈り取った稲を収穫する。
（総合）



ビオトープを使った学習など
（総合・理科）

学習のねらい

- ・様々な学習に学校の中庭を活用した活動を取り入れ、環境を意識しながら豊かに生活する姿勢を育む
- ・全校児童730名の大規模校であるデメリット（敷地の狭さや安全確保のため、児童の行動を抑制せざるを得ない場面が多い）を補い、児童に不足しがちな自然体験や実感を伴った学習をさせる。
- ・図画工作科、総合、特別活動（クラブ）、理科などの学習に加え、日常の学校生活全般にわたり、中庭を活用することで、豊かな感性・情操を育てる。

学習活動

- ・コマ撮りアニメーション「だるまさんが転んだ！」（図画工作科）
- ・小屋をつくる（現代アートクラブ）
- ・ミニ田んぼで稲を育てる・ソーラークッカーでご飯を炊く（総合）他

準備品

- ・デジタルカメラ・材木・セメント・電動工具（チェーンソー、グラインダー、電動ドライバー、ゴムシート、稲、土、肥料など）

実施場所

中庭

学習の流れ

場所・授業数	概要	活動の様子	反応
<p>中庭</p> <p>6 時間</p>	<p>コマ撮りアニメーション 「だるまさんが転んだ！」 (図画工作科)</p> <p>①ボール紙で仮面をつくる。 ②つくった仮面をかぶり、中庭で動きながらデジタルカメラで50コマ程度写真撮影する。 ③その後、教室のテレビで再生し、動きの面白さを知る。 ④感想を発表する。</p> <p>(中庭での感想も含めて)</p>		<p>はじめはどんなアニメーションになるのかよく分からない児童もいたが、教室のテレビで再生し、流れが理解できた後は動き方をそれぞれ工夫したりする姿が見られた。</p> <p>教室の中で行った時よりもかなりのびのびと活動していた。</p> <p>「教室でやった時と比べてどうでしたか。」と質問したところ、「教室より広く、校庭よりまとまりやすく、活動しやすかった。」、「中庭でこのようなことをやってみて、良さがわかった」などの感想があった。</p>
<p>中庭</p> <p>16 時間</p>	<p>小屋をつくる(現代アートクラブ) 小屋や焼き物の作品をつくり、中庭に置いて全校児童に楽しんでもらう。</p> <p>①アイデアを出しあい、話し合う。 ②窓、柱をつくる。窓をグループ(2~4人)で一つずつ作り、柱に取り付ける。 ③屋根、壁の板を切って釘で打っていく。 ④中庭に設置する。 * 記念撮影</p> <p>防災について「仮設のトイレ活用法」 災害時、ここを非常用トイレとして活用できるよう、三角コーン、ポリタンクなどを常備して使うことを解説する。</p>		<p>4~6年生が話し合い、協力しながら、楽しく小屋をつかった。</p> <p>①「みんなでくつろげる小屋にしよう。」 ②「どんな窓にしようかな。鳥を観察できるといいな。」 「開け閉めできたらいいね。」 ③「屋根は竹を使おう。」 「壁は隙間がないように、木を切ってつけていこう。」 ④「できた！」交代で中に入り、雰囲気を楽しみながら、喜びを分かち合っていた。</p>

学習の流れ

場所・授業数	概要	活動の様子	反応
<p>中庭</p> <p>8 時間</p>	<p>ミニ田んぼで稲を育てる (総合)</p> <p>①ミニ田んぼをつくる。(4月) ②田植え(5月) ③観察、水やりなど(6~9月) ④ネット張り、かかしづくり(9月) ⑤稲刈り(9月) ⑥脱穀・粃摺り(9月)</p> <p>* 社会科の学習と関連させながら学習をすすめる。</p> <p>* かなりの手間をかけても、わずかな米しか採れないことを知り、稲作の大変さに驚く。また、稲を見つけるとすぐに雀がやってきたり、水の中にめだかが繁殖したりするのを観察し、生き物が密接な関係の中で生息していることを知る。</p> <p>ソーラークッカーでご飯を炊こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エネルギーについての学習をした後、太陽光を使ってご飯を炊いてみようということになり、段ボールの内側にアルミコーティングを施した「ソーラークッカー」を使って、3時間かけて炊飯体験をした。 ・ 準備・・・ソーラークッカー、米(刈り取りから10日間干し、脱穀し玄米状態にしたもの、飯盒) ・ 午前9時から3時間後の正午、ご飯が炊けて、一人スプーンに入さじずつ食べた。(保護者の承諾済) 	      	<p>「こんなところに田んぼをつくれるんですか。」</p> <p>「どのくらい収穫できるのだろう。」</p> <p>「稲のまわりに藻が生えているね。」</p> <p>「だいが実がなってきた！」</p> <p>「粃摺りは大変だな。」</p> <p>「こんな都会でもお米が採れるんだね。」</p> <p>太陽光でご飯が炊けることを知り、また自分たちの育てた稲が実際にご飯になるのを見て、日常的に食べているご飯がたくさんの人々の努力によって作られているかということを実感していた。</p> <p>「こんなに苦労して、やっと一人一口のお米だね。」</p>

生徒の作品



コマ撮りアニメーション



小屋をつくろう



生き物のお墓



トーテムポール



ピオトープの主

先生の声

実施に当たり工夫した点
苦労した点

実際に毎日中庭の周辺にいる子供達の様子を見ながら、環境を生かして生き生きと学校生活を送れるようにさせようと、予算のない中、最大限の工夫をした。PTAの協力で美化活動を行うなど、授業外での活動も多かったが、地域・保護者の理解や協力が強くあり、学校を中心にネットワークが広がったことも大きな成果である。

児童・生徒の反応

どの活動も、児童は生き生きと興味を持って取り組んだ。毎年、北校舎に配置される5年生は、環境が悪い（日当たりや広さ、開放感が足りない）中で学校生活を送らなければならないが、この活動によって中庭を優先的に使えるというメリットを生かして一年間を送り、満足した表情を幾度も観察できた。

教師の変化
(担当、担当外を含めて)

学校内では様々な意見があり、以前は中庭は危険なので立ち入らせないということになっていたが、この活動を通じて、ある程度環境の一部として活用できる場所であるということ知られるようになってきた。環境委員会とおやじの会で作ったピオトープも、一部の子供たちの憩いの場として毎日活用されている。また、各学級で飼育していたザリガニやメダカなどが死ぬと、お墓を作り中庭に来て、毎日花を供えたり、手入れをしたりする子供の姿があり、そのような光景を見守る教師が少しずつではあるが増えてきた。

その他

学校は、とかく管理的になりがちである。安全は最優先課題であるが、子供達の豊かな体験がなくなってもよいということではない。今後も学校の片隅で子供達の豊かな成長を願い、隙間を縫うような、ささやかな活動を行っていくため、関係諸機関との連携を保持していきたい所存である。